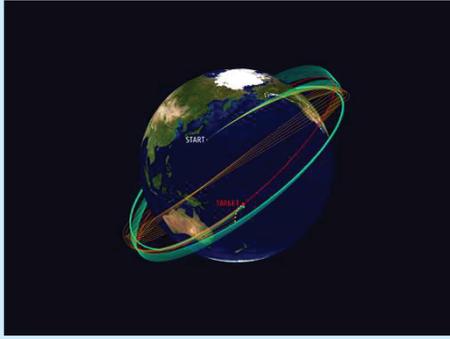


宇宙基礎工学コース



航空宇宙工学の基礎をなす6つの研究分野で構成

- 航空宇宙力学分野
- 流体力学分野
- 流体数理学分野
- 推進工学分野
- 制御工学分野
- 機能構造力学分野

航空宇宙力学分野

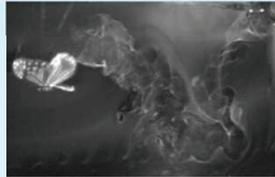
力学的理解と運動知能に基づく航空宇宙システムの知能化制御とシステム設計



人間の技能の解明に基づく宇宙ロボットの自律的制御

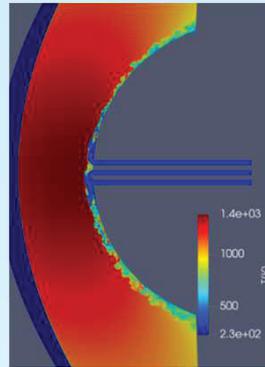


昆虫の運動知能に基づく脚型宇宙探査ローバの制御(上)と蝶の飛翔原理の解明(下)



流体力学分野

高速複雑流体の解明



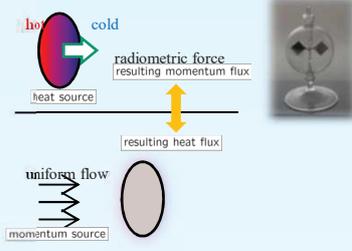
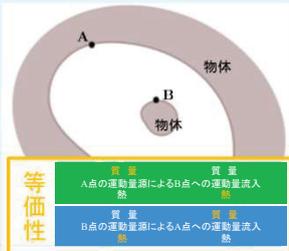
- 高速気体力学の数理解析・シミュレーション
- 衝撃波捕獲スキーム
- 希薄気流の数値解析
- 分子気体効果の工学的応用



流体数理学分野

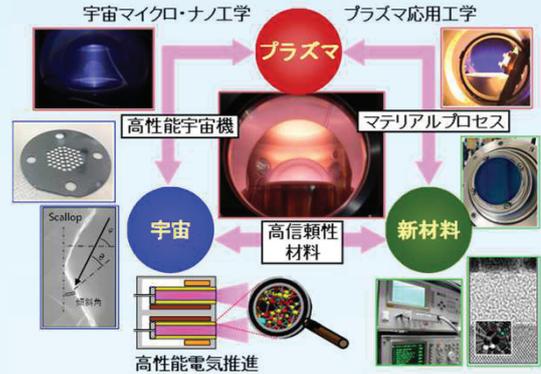
強い非平衡状態にある流体中で起こる現象の研究
希薄気体に対する相反定理の確立とその応用

応用例: ラジオメータ効果の研究



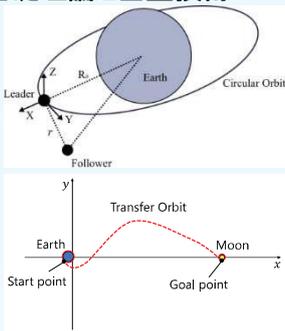
推進工学分野

プラズマと固体との相互作用の理解・制御を通じて、次世代の新材料・推進システムの高性能化・高信頼性化を実現する

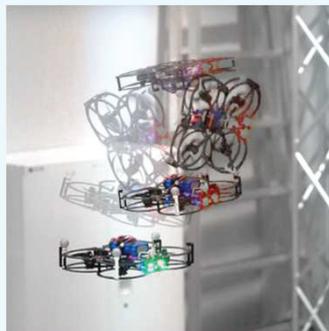


制御工学分野

航空宇宙における制御工学・統計的学習の基礎理論と基盤技術



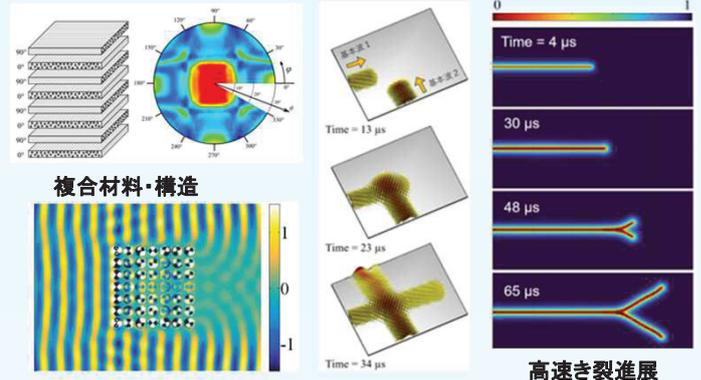
宇宙機の軌道計画と姿勢制御



ドローンの宙返り実験

機能構造力学分野

材料・構造の動的非線形挙動解析と高機能化



複合材料・構造

フォノンニック結晶

非線形超音波効果

高速き裂進展

航空宇宙力学講座

教授 泉田 啓

<http://space.kuaero.kyoto-u.ac.jp>

研究目標

対象のことを力学的に理解する。また、動物が巧妙に運動を生成する知能(運動知能)を解明する。
この**力学的理解**と**運動知能**に基づき航空宇宙システムの知能化制御とシステム設計を行う。

研究内容

- 蝶の羽ばたき飛翔(右図)は
- (1) 制御(脳神経系) 【制御・情報】
 - (2) 身体(翅・筋骨格) 【力学】
 - (3) 環境(流場) 【流体】
- の相互作用の結果として実現される!



身体(翅・筋骨格)理解
 生物学的理解
 生体の運動計測
 ⇒蝶の身体モデル化

制御(脳神経系)
 身体(翅・筋骨格)
 環境(流場)
 環境と身体
 の相互作用

制御の解明
 感覚器(センサ)
 中枢神経系の情報処理
 ⇒飛行制御系の設計

環境(流場)の理解
 流場の実験計測
 数値シミュレーション
 ⇒環境(流場)のモデル化

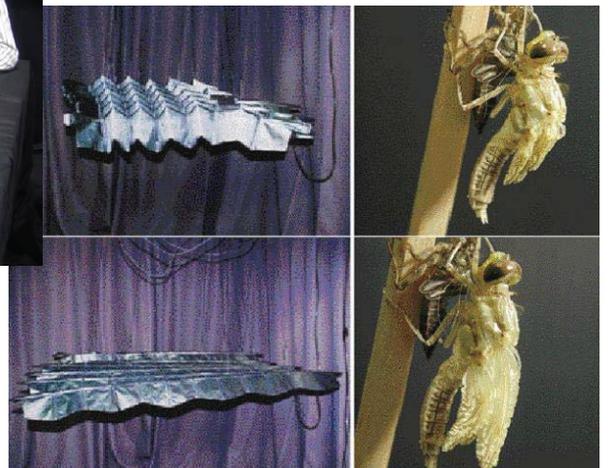
同アプローチによるその他の研究



人間の技能の解明に基づく
宇宙ロボットの自律的制御

昆虫の運動知能理解に基づく
脚型宇宙探査ローバの
システム設計と知能化制御

昆虫の羽化の理解に基づく
インフレーター構造の設計

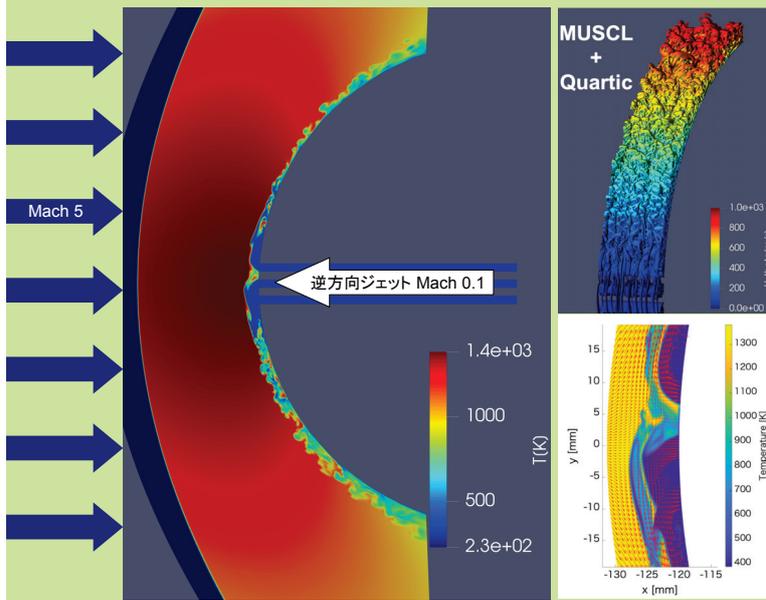




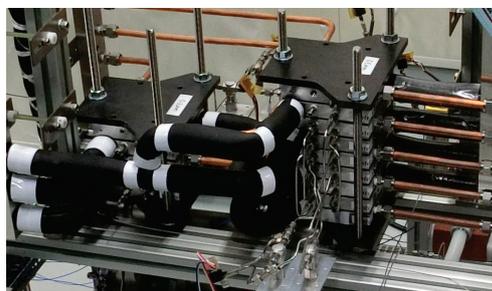
超音速で航行するジェット機の周りには衝撃波が形成されます。衝撃波は非常に薄い層で、そこで大気は圧縮され、運動エネルギーは熱エネルギーに変換されますが、その変化はほとんど不連続的です。また機体の表面近くでは境界層の剥離や乱流への遷移等の様々な不安定現象が生じ、流れは非常に複雑になります。本研究室では高速複雑流体の簡便で信頼性の高い数値解法の開発を行い、その過程で生まれた計算法を航空宇宙流体解析に応用する研究を行っています。

逆方向ジェットを利用した極超音速空力加熱に対する熱防御

極超音速宇宙機ノーズのアクティブな冷却法として、亜音速逆方向ジェットによるフィルム冷却の研究を行なっています。2次元の解析では翼前縁付近の熱流は90パーセント近く減少しましたが、3次元解析では種々の不安定現象、乱流遷移により50~60パーセントにまで低下します。少量の冷媒で高い冷却を行える可能性を探っています。



当研究室のもう一つの研究テーマは、希薄気流やマイクロ・ナノオーダーの気流の実験的研究です。このような気体では分子運動論的効果が顕著になり、例えば止まっている壁でも流れが生じたりします。現在、分子運動論的効果を利用した混合気体の成分分離などを行う様々な新規デバイスの開発に取り組んでいます。

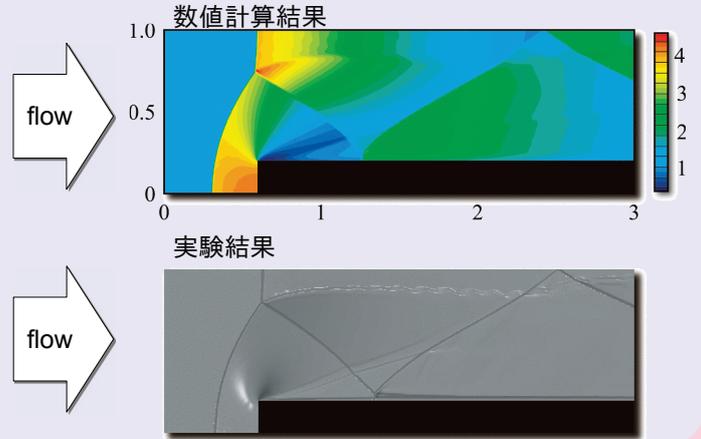


無電力気体分離

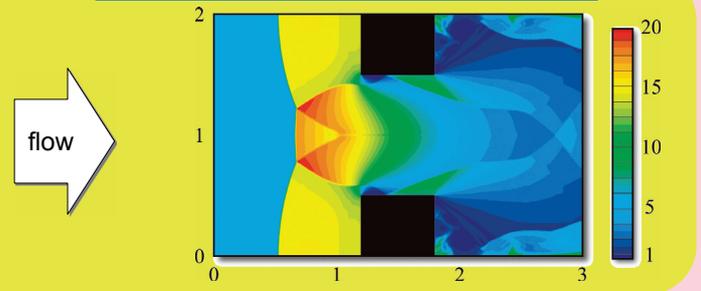
数十度の温度差で混合気体の濃度を変更する実験。マイクロ流路を用い大気圧で動作します。質量が異なれば同位体でも動きます。

初学者でも解る！衝撃波捕獲高解像度スキーム

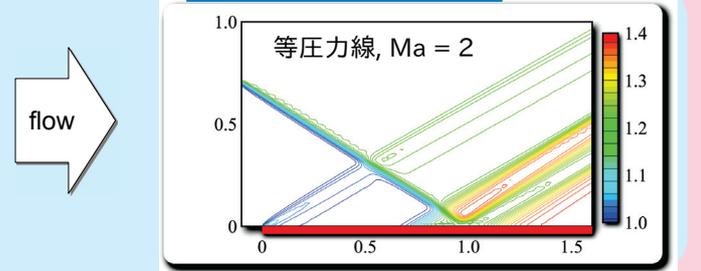
板を通過する超音速流 (Mach数=3)



オリフィスと衝撃波の干渉 (Mach数=10)

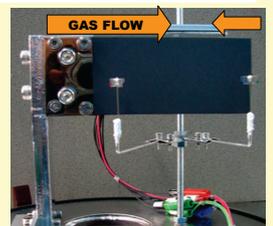


衝撃波と境界層の干渉

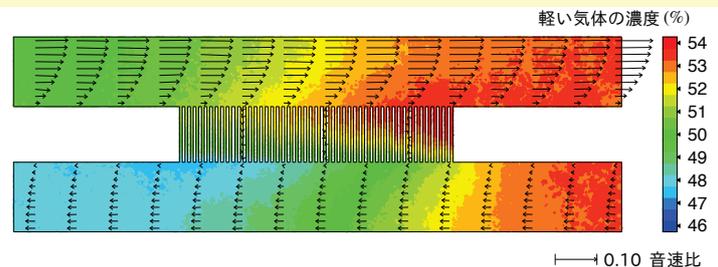


温度場で駆動される低圧気体の流れ

▶ 低圧気体の流れのデモ装置。
光を当てると低温部分から高温部分へ気体の流れ、羽根車が回ります。



▼ 混合気体分離装置の解析
上側の高温高压流路・下側の低温低压流路の間のマイクロチャンネルで分子が交換され、混合気体の組成が変化します。



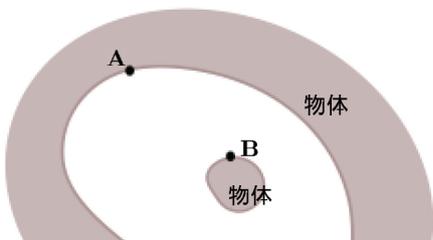
航空宇宙工学専攻 流体数理学分野

(高田 滋 教授・初鳥 匡成 助教)

おもに局所平衡から大きくずれた状態にある流体の理論的研究を行っています。運動論方程式に基づくメソスコピックな立場から流体中に起こる様々な現象を深く理解し、従来の概念だけでは手が届かなかった流体力学、気体力学の新しい適用の場を開拓することを目指しています。

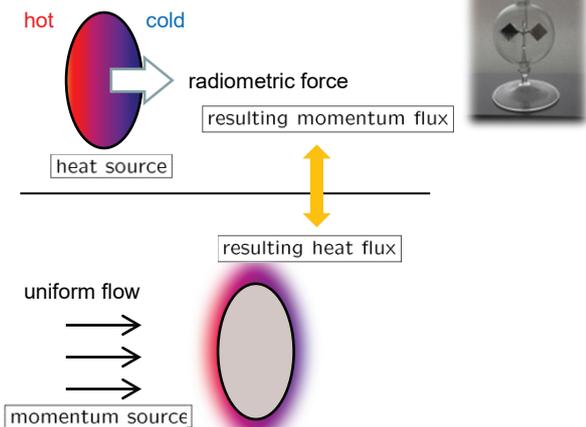
最近の研究から...

希薄気体に対する相反定理の 確立とその応用

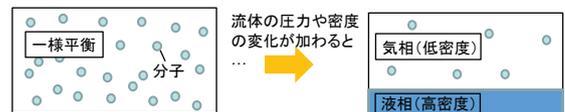


等価性	質量	質量
	A点の運動量源によるB点への運動量流入熱	B点の運動量源によるA点への運動量流入熱
	質量	質量
	B点の運動量源によるA点への運動量流入熱	A点の運動量源によるB点への運動量流入熱

応用例: ラジオメータ効果の研究



Van der Waals流体の相分離現象の 分子運動論的解析

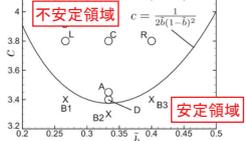


運動論モデルから回復・導出 線形安定性に関する中立曲線

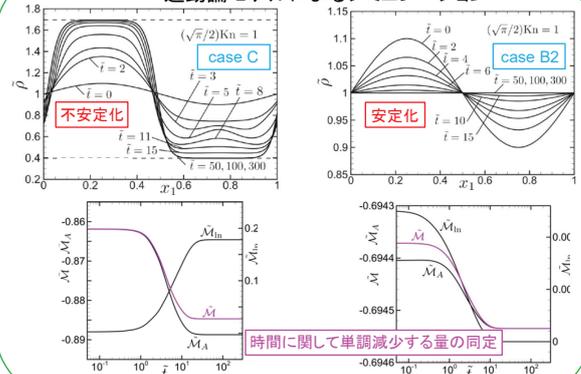
Van der Waalsの状態方程式

$$p = \frac{\rho RT}{1 - b\rho} - \rho^2 a$$

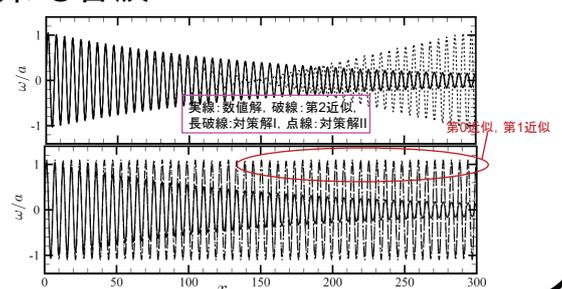
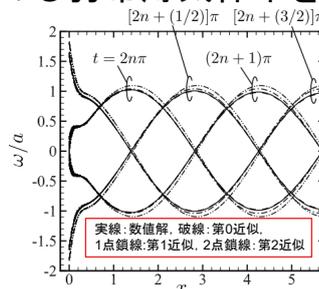
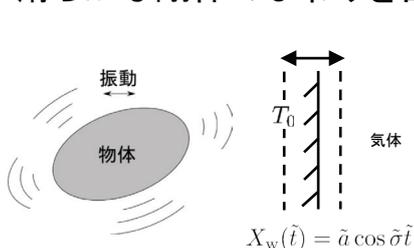
a, b : それぞれ短距離分子間引力効果, 体積排除効果を表す正のパラメータ



運動論モデルによるシミュレーション



滑らかな剛体のまわりを占める弱希薄気体中を伝わる音波



➤ 日本航空宇宙学会関西支部分科会「非平衡流体への運動学的アプローチ」主催

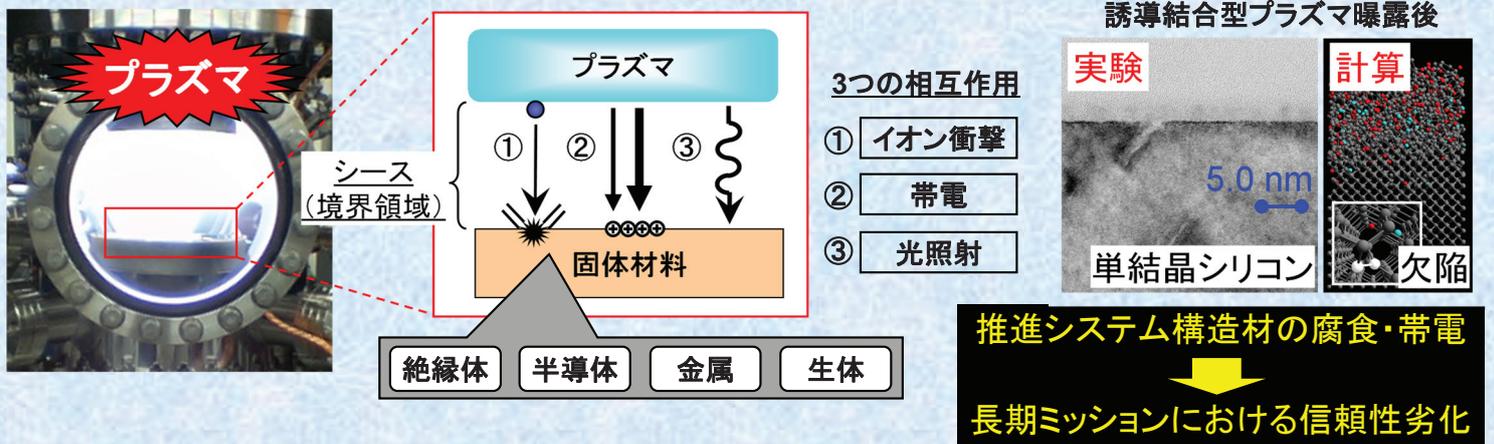
物理工学科・宇宙基礎工学コース / 工学研究科・航空宇宙工学専攻 推進工学分野 (Propulsion Engineering Lab.)

教授 江利口 浩二 准教授 占部継一郎

明日を創るプラズマ科学

宇宙工学、エネルギー工学から、マイクロ・ナノテクノロジーまで
～「プラズマ工学」「極限環境物理学」「信頼性物理学」の基礎的研究～

本研究室では、宇宙・超微細プロセス・材料創製など様々な産業分野で重要な役割を担う電離気体「プラズマ」に関する基礎研究および宇宙工学をはじめとする最先端技術への応用研究を行っています。それらの力学的性質と共に、構成要素である原子分子やイオンと固体表面との相互作用に関する研究ならびに極限環境・長期ミッションに耐える新しい材料・システムの研究を行っています。



- 研究テーマ**
1. プラズマと固体との相互作用に関する研究 (例: 欠陥形成による材料特性劣化)
 2. 新材料創製による高性能推進システムに関する研究 (例: 高耐久窒化ホウ素材料)
 3. 宇宙マイクロ・ナノ工学に関する研究 (例: 長期ミッションにおける高信頼性技術)

プラズマと固体との相互作用を科学的に理解・制御することで、極限環境下で利用される次世代の新材料・推進システムの高性能化・高信頼性化を実現する



制御工学分野

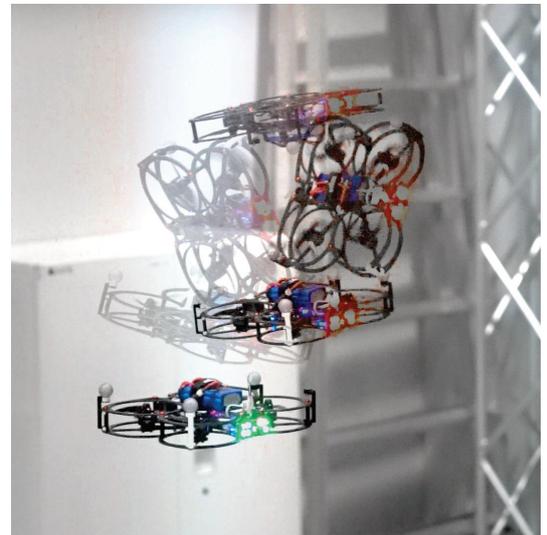
教授 藤本 健治, 准教授 丸田 一郎, 助教 鹿田 佳那

制御工学・システム工学の基礎理論と応用研究

🔍 システム制御

システムとは入出力を持つ対象を数理的に表現したものであり、特にダイナミクスを有するシステムの解析・設計手法がシステム制御である。当分野では航空宇宙に限らず機械・電気・物理・化学・情報・社会など、様々なシステムを扱うためのシステム制御理論の構築を行っている。扱う主なテーマは非線形制御、最適制御、確率システム制御、ロボット工学、機械学習などである。

これらの理論の構築には、多くの分野の知識を総動員する必要があり、特に線形代数、微分幾何、関数解析、解析力学、航空宇宙力学、確率統計、統計的学習、メカトロニクス、計算機等の知識を融合して行う。近年は、解析力学に基づく力学的な非線形制御、データベースに基づく非線形最適制御等のテーマを重点的に開発している。



ドローンの宙返り実験

📊 システム同定

システムの制御においては対象システムのダイナミクスを表す数理モデルが重要であり、設計した制御器の性能や安全性は用いられた数理モデルの精度に強く依存する。しかし、複雑なダイナミクスを持つシステムのモデルを構築することは困難であり、大量のデータに基づき系統的にモデル構築を行う方法、すなわちシステム同定法が必要とされる。

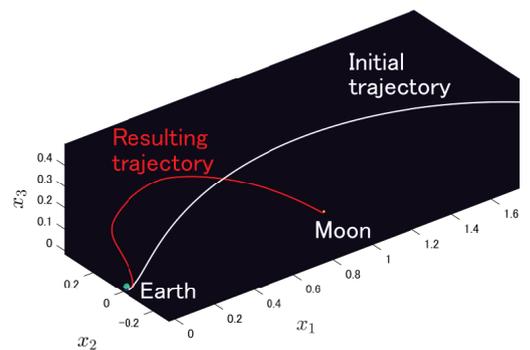
当分野では、機械学習手法を用い、強い非線形性を持つシステムのモデルを構築可能なシステム同定法と、得られたモデルを活用する制御理論の開発に取り組んでいる。



ラジコンカーの自動運転

🚀 航空宇宙システム

航空機や宇宙機は制御が不可欠なシステムであり、高精度かつ信頼性の高い制御システムの構築が求められている。航空機分野では、流体を含めた複雑なモデルの扱いから管制システムを含めた大規模系の制御まで多機能な制御が必要である。一方、宇宙機のミッションでは、極限状態である宇宙空間で動作させるため究極の省燃費な制御と高精度な制御の両立が求められている。当分野では、特に宇宙機制御に有効な方策として、スパース最適化などの非線形最適化手法を用いた省エネ制御のための軌道計画法や、宇宙機の力学系としての性質を利用した姿勢制御やランデブー制御などの手法を開発しており、航空宇宙の様々な問題に応用している。



地球から月への遷移軌道設計



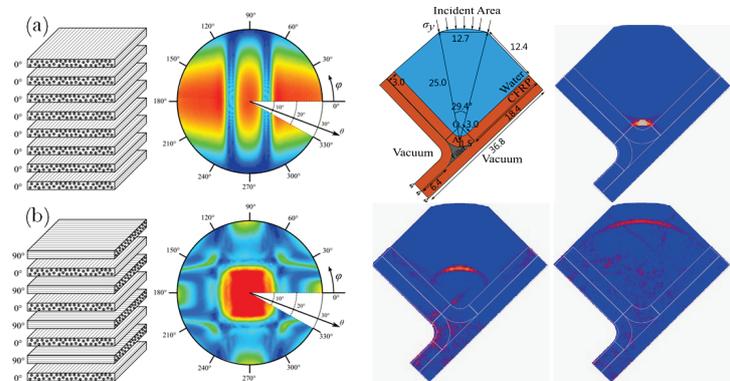
機能構造力学分野

教授 琵琶 志朗 助教 石井 陽介

本研究室では、複雑な微視構造を有する材料や構造の動的かつ非線形な力学挙動（弾性波伝搬挙動、高速き裂進展挙動）を明らかにするとともに、航空宇宙工学をはじめとした幅広い分野における構造の高機能化・健全性評価の基礎学理を築くための理論的、数値的ならびに実験的研究を行っています。

複合材料構造における超音波伝搬挙動

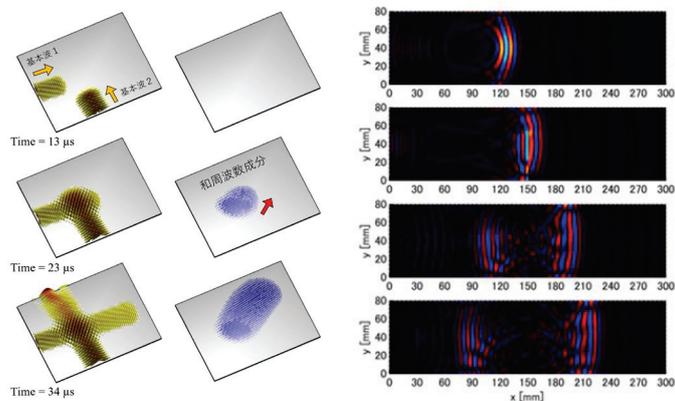
航空宇宙分野では軽量かつ高剛性・高強度という特徴を有する炭素繊維強化複合材料の適用が広がっています。本研究室では、複雑な微視構造や積層形態、巨視的異方性特性を持つ複合材料構造における超音波伝搬挙動を解明し、超音波スペクトロスコピーによる材料特性や微視欠陥の非破壊評価の高度化につなげるための基礎的研究を進めています。



超音波ポラースキャンによる繊維強化複合材料積層板の異方性弾性特性の測定
複合材料積層構造コーナ部における超音波伝搬挙動の数値シミュレーション

薄肉構造における弾性波伝搬挙動

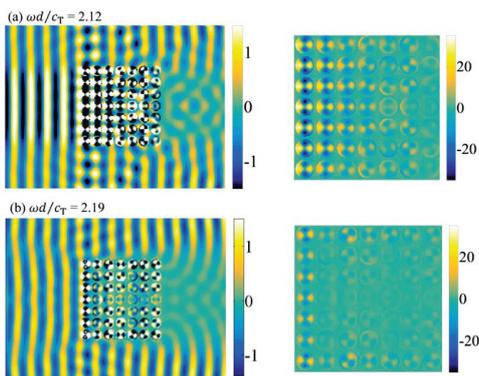
軽量化のために薄肉化された構造では弾性波の伝搬挙動は極めて複雑になり、多モード性（同じ周波数をもつ多くの伝搬形態が存在すること）や分散性（伝搬速度が周波数に依存すること）などの特徴があらわれます。本研究室では各種の薄肉構造における弾性波の線形・非線形伝搬挙動を明らかにし、構造健全性評価への応用を図っています。



平板を伝わる弾性波（ラム波）の非線形周波数ミキシングの数値解析
き裂によるラム波散乱の数値解析

フォノンニック結晶・メタマテリアルによる弾性波機能構造

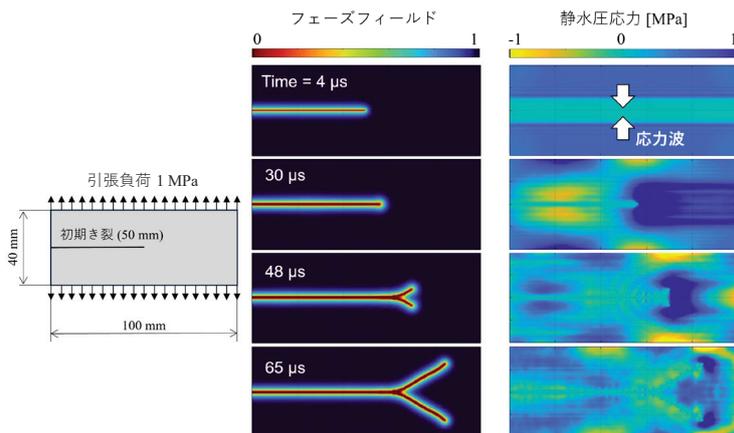
弾性波の波長スケールで特徴的な内部構造を付与した、既存の材料では見られない弾性波伝搬特性を持つ人工的構造（フォノンニック結晶、メタマテリアル）が盛んに研究されています。本研究室では、さまざまな周期的構造を有する平板構造やラティス構造における弾性波伝搬挙動の特徴（遮断、負屈折、集束など）を理論・数値解析によって調べています。



フォノンニック結晶平板における曲げ波の遮断（多数の散乱体の共振を利用）

固体材料中の高速き裂進展挙動

航空宇宙分野では、航空機への鳥衝突や宇宙機へのスペースデブリの衝突などによる構造物的高速破壊が問題になっています。このような現象を正しく理解しより安全な構造物を設計するためには、高速き裂進展挙動の解明が必要不可欠です。本研究室では、フェーズフィールド法を用いた数値解析によって、固体材料中を音速と同程度で高速進展するき裂の進展メカニズムを明らかにするための基礎的研究を行っています。



高速進展モードIき裂の分岐挙動の数値シミュレーション